

8・15終戦記念日宣伝行動、埼玉県本部



No.387

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
Eメール chian@plum.plala.or.jp
電話 03 5842 6461
FAX 03 5842 6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

深まる矛盾、重要な秋の闘い

小泉政権が幕を引きます。政権末期は、内政・外交とも矛盾が噴きだし、きびしい批判のなかの退陣となります。後継総理が誰になると、次期政権は、自民党が圧倒的多数を占めるもとで、小泉悪政を引き継ぐ自公政権になることは明らかです。しかし多くの国民はこの夏大きな論議になった「大東亜戦争」肯定論や愛国心教育、改憲策動などに戦争と暗黒政治再来の危険を感じています。また「改革」の名によるくらしや医療改悪・増税などにより生活困窮者が激増し、格差社会のなかでたいへんな貧困化が進んでいます。

自公政権と国民との矛盾は深まり、秋の臨時国会から来年の通常国会、さらに統一地方選挙・参議院選挙に向けて、「小泉悪政を継続するのか、断ち切るのか」が問われる激動の情勢です。

同盟は、この夏に全国理事会を開き、当面の活動方針を決定しました。これを受けて各都道府県本部は年次大会を開き実践に踏み出しています。

秋からのたたかいが重要になっています。改憲・教育基本法改悪勢力の「戦争と暗黒政治」復活の企みを許すことはできません。全同盟員が意思を統一し、「国会請願署名運動をはじめ戦争と暗黒政治を許さない」同盟課題を推進しましょう。来年の選挙で地方政治と国政で真の革新前進のために今から力を尽くしましょう。

主 な 記 事

- 終戦記念日/8・15―全国で統一宣伝行動……………2
- 顕彰碑/竹中彰元の墓・岐阜県……………4
- 時の焦点/「満州事変」七五周年……………5
- 抵抗の群像/小松益喜……………6
- 同盟歌壇/碓田のぼる選……………7
- 書棚/『天皇の軍隊と日中戦争』……………7

終戦記念の日 8・15

全国で統一宣伝行動取り組む

8月15日、小泉首相の靖国参拝に国民の平和への誓いは、怒りと抗議の行動となりました。この日同盟は、全国ピラをもって約三十数都道府県で宣伝行動を展開、再び戦争と暗黒政治をくりかえすなど街頭に出て力強く訴えました。そのいくつかを紹介します。①はピラの発行枚数 ②は宣伝方法(新聞折り込み数は略) ③は特徴的状況です。

北海道

①六二〇〇枚 ②街頭宣伝七カ所、署名四九筆 ③十二支部中七支部が街頭宣伝、三支部は革新懇と共同。札幌、帯広の街頭宣伝ではパトカー、警官六人を呼ぶなど妨害があった。

青森

①二五〇〇枚 ②街頭宣伝一カ所、ピラ四五〇枚 ③行動参加者十六人、署名五十一筆、若者と年配者はよく署名してくれる。

福島

①二五〇枚 ②街頭宣伝一カ所

③福島駅前で街頭宣伝、右翼の大型宣伝カーがきた。ピラの裏に治安維持法とは? などすり込み配布。

秋田

①一万八〇五〇枚 ②県本部・県内八支部、宣伝カー四支部に一台ずつ、演説とピラ配布、宣伝カーのない支部は町内に配布 ③ピラ配布枚数は過去最高、参加した会員四十人を超えた。

茨城

①一八〇〇枚 ②街頭宣伝四市十三カ所(宣伝カー一台、ハンドマイク一台) ③若い人のピラ受け取り

りよかった。参加した民主団体役員、戦争反対と治安維持法を一言で説明は難しい」との感想。署名二十四筆。参加者二十人。

千葉

①八〇〇枚 ②街頭宣伝一カ所(船橋支部一〇〇枚、津田沼駅リレートーク)

埼玉

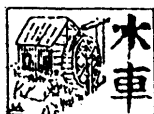
①五〇〇枚余 ②街頭宣伝三カ所、県本部は川越駅で十二人、五〇〇枚配布、他は坂戸、鶴ヶ島。署名十筆、所沢で他団体含む十数人で行動 ③台風の余波をぬつての一時間の行動

東京

①一万二九〇〇枚 ②宣伝カー、ハンドマイク、街頭宣伝五カ所 ③「今日は何の日ですか」と聞かれたところもあった。マイクでの宣伝が効果的で街頭でのピラ配布一二三〇枚。

神奈川

①五〇〇枚 ②街頭宣伝は藤沢駅



1945年9月初旬、われわれ一行は貨車に乗せられ「ソ満」国境を越えた。バイカル湖畔の街チタから3昼夜、エニセイ川沿いのクラスノヤルスクに到着する。強制収容所での捕虜生活の始まりである▼クラスノヤルスクは独ソ戦中ドイツの爆撃圏外に重工業地帯が急遽つくられたところで、工場群が並んでいた。数年前橋本・エリツイン会談がおこなわれ、日本でも名が知られるようになった▼シベリア流刑史(岩波新書)によると帝政時代まではシベリアに流される政治囚は、ここを分岐点に各地に送られたとある。冬は零下三〇度から四〇度になったが、連日風速10メートルの風が吹く。耐寒温度は五〇度くらいになった。シベリアでは六〇万の同朋のうち約一割が栄養失調や病気で命を落としたが、特に初年度の死亡者が多かった▼強制労働にたいする賃金は旧ソ連も日本政府も今もって支払っていない。全国抑留者補償協議会が賃金支払いを求めて訴訟をつづけている。原告の平均年齢は85歳。(佐)



柳河瀬会長を先頭に・大阪

前一カ所、三五〇枚 ③駅頭宣伝は昨年と同じく超党派(同盟はじめ民主、社民、ネット、共産など各党市議、新婦人、平和市民団体など約六十五人)、二時間のリレー演説と宣伝行動

山梨

①二〇〇枚 ②甲府駅前で同盟旗を掲げてハンドマイク宣伝

長野

①二万枚 ②街頭宣伝一カ所 ③八月九日、県本部三役会議を開き、昼休みに長野駅前で宣伝行動。民主青年同盟県委員長も参加。弁士も新役員の訴えで内容も新鮮

石川

①二二〇枚 ③県本部としてハンドマイク街頭宣伝、ビラ一八〇枚、五人参加 ③新日本婦人の会県本部事務局長もビラ配布に参加、受け取りの反応はよく、「小泉けしからん」との声も。県本部としては五年ぶりのデパート前の行動。

岐阜

①一万一五〇〇枚 ②岐阜市で五〇〇枚街頭宣伝・ビラ配布

滋賀

①五〇〇枚 ②街頭宣伝、③若者に配布することを心がけ、かなり受け取ってくれた。

京都

①三〇〇〇枚 ②街頭宣伝二カ所、署名一〇〇筆 ③ビラは八月一〜六日の戦争展、十日の清水寺境内の宣伝行動(十人参加)、十五日は四条河原町高島屋前。

奈良

二〇〇枚、新聞と「不屈」紙に折り込み。

大阪

①一〇〇〇枚 ②街頭宣伝三カ所 ③府本部は京橋駅で十四名でビラ配布、他に堺支部で他団体と一緒に二駅で宣伝 ③参加者からは「今年はビラの受け取りが例年に比べてよかった」との声。十五日の小泉靖国参拝の影響か。

兵庫

①三〇〇枚 ②街頭宣伝一カ所、共産党恒例の街頭演説、同盟は五人でビラ配布 ③共産党予定候補の演説会場周辺でビラ配布、昨年より若干受け取りはよかった。

鳥取

①二四〇枚(内一二六枚は裏に「国賠同盟は何をしているか」を印刷) ②街頭宣伝三カ所、十人、ビラ五七九枚、五カ所五人で各戸配布五五〇枚、署名は鳥取支部・県本部合同で鳥取市で一時九人参加、署名五十六筆、憲法署名四十一筆、これまでの倍の数



市民団体とも共同して・神奈川

③ビラの内容良し。六十代以上と青年学生の反応良し。同盟のゼッケンは効果があった。署名・ビラの受け取りはこれまでの最高。

島根

①五〇〇枚 ②新聞折り込み ③読者から「国賠同盟のビラ入っていたよ」の電話もあった。

広島

①三五〇〇枚 ②街頭宣伝四カ所、署名六十筆 ③改憲、岩国基地増強の危険に対し戦前の反戦平和の伝統に学ぼうと訴え「ごくろうさん」の声もあった。

高知

①一〇〇〇枚 ②街頭宣伝一カ所
(高知市北・南支部)、署名六十
筆 ③街頭宣伝は六人の会員で県
庁前で宣伝 「今日は終戦記念日
でしたね」「ご苦労様」の声も。

愛媛

①二五〇枚 ②街頭宣伝一カ所、
署名四十九筆 ③ビラ配布は予定
の半分に終る。署名は中学三年生
はじめ十、二十代の若い人が半数
を超え、予期しない結果に全員(七
人)元気をもらった。愛媛新聞、
しんぶん赤旗にも掲載された。

大分

①三〇〇枚 ②街頭宣伝一カ所ビ
ラ配布 ③大分市中心街で三人で
ビラ配布、昼休みのせいか親子づ
れが多く、同盟のビラを見て「本
当ですね、この子たちを戦争には
やりたくありません」と子どもに
「おじちゃんありがと」と言いな
さい、暑いのに皆のために頑張っ
ているのだから」と話していた。

長崎

長崎支部が中心となってビラ配
布。ビラを手にした市民や観光客
は、終戦の日ですね。がんばって
「父は戦死、戦争はもういやです
ね」と話され、熱心に読む若もの
の姿もみられた。

宮崎

①六〇〇枚 ②街頭宣伝

鹿児島

①八〇〇枚 ②街頭宣伝四カ所で
宣伝カー演説 ③鹿児島中央駅前
で三人ビラ配布三〇〇枚、始良支
部二人で三〇〇枚 ③高齢者は六
十年前のことを覚えていて「苦
しい時代だった」の声。右翼の車
が三台回っていた。

都道府県本部総会開く。続

前月号に続き、①開催月日②参
加者数③新三役名④総会の特徴に
ついてお知らせします。

秋田

①五月二十八日・秋田市 ②代議

員・評議員四十五名出席 ③会長
・近江谷昭二郎、事務局長・伊藤
紀久夫ら三十一人を選出 ④十一
人が発言、改憲反対、治安維持法
犠牲者ら墓参会、署名二万五千余
の署名活動ほか多面的な経験が報
告され、国民的共同の発展に全力
をとよびかけた。

福島

①七月二十二日 ③会長・加藤
起、事務局長・山口文彦ら二十七
人④改憲派の策謀、教育基本法改
悪、共謀罪制定などの企みなど、
同盟の責務は重大。

石川

①七月十七日 ②四十七名 ③会
長・北口吉治、副会長・森昭、近
松美喜子、事務局次長・金子規好
④第一部に講演「治安維持法と
今日の課題」講師・柳河瀬精氏・
大阪府本部会長。第二部で総会、
発言者九人。

福岡

①七月二十五日 ③会長・角銅立
身、事務局長・橋本幸夫ら十七人

選出 ④討論では署名目標超過達
成、会員拡大の経験など発言が各
支部から出された。

計報

高嶋信敏さん



同盟中央
本部副会長
の高嶋信敏
(たかしま
・のぶと
し)さんが、

八月一日肺腺がんにより逝去され
ました。享年八十四歳。

高嶋さんは一九九一年北海道本
部会長に就任され、二〇〇一年か
ら中央本部副会長として活躍され
ました。

砂川炭鉱で生まれ、夕張で学び、
幌内炭鉱で技術労働者として働い
た体験を生かし、労働者・農民は
じめ広く勤労市民に深い愛情を傾
け、誠実一途に不屈の生涯を送ら
れました。

同盟運動では「風化させるので
はなく、むしろ顕彰すべきだ」と
治安維持法犠牲者の歴史的貢献を
強調されるとともに、今日恒例と
なった「八・一五街頭宣伝行動」
では、いつも先頭に立って奮闘さ
れました。

顕彰碑

||||| 振動

反戦をつらぬいた住職

竹中彰元

岐阜県垂井町明泉寺

竹中彰元は、一八六七（慶応三）年十月三日浄土真宗大谷派明泉寺に生まれた。真摯な信仰の立場から仏教教理の「兵戈無用」（大無量寿經）不殺生から、弾圧に屈せず反戦を唱えて刑をつけた。

一九三七年日中戦争が始まり九月十五日、出征軍人を垂井駅まで見送る行列の中で「戦争という事も、昨日も千人今日も三千人という様に沢山な死傷があつて悲惨なことだ。一体戦争は罪悪である。……戦争はもうこの辺で止めたほうが国家として賢明である。」（「予審終結決定」より）。



また十月十日、近くの寺の法要で数人の僧侶の間で「戦争は悲惨な極みで罪悪である……これ以上の戦争は侵略だ云々」と語った。

これを特高が知り、彰元は取調べを受けた。しかし信念を曲げぬため名古屋高検で、検事は「貴方の言うとおりです、しかし今は非常時です」といわれ彰元は最後に一言「非常時だったなら人を殺してもいいのですか」と言つたといわれている。

彰元は一九三八年四月禁固四カ月（執行猶予三年）の判決を受けた。一九四五年敗戦の報を聞くと安堵したのか微笑を見せ、その秋十月二十一日七十九歳で亡くなった。毎年宗教者有志が明泉寺に集まり、彰元忌（昨年は第六回）が開かれている。なお戦中大谷派の彰元への処分の取り消しの運動も、有志によって進められている。

（岐阜・小澤記）

時の焦点

一九三一年九月十八日夜、日本陸軍の関東軍（「満州」に配置した軍隊）の高級將校板垣征四郎や石原莞爾らは周到な準備の上で瀋陽の柳条湖付近で、自ら南満州鉄道の線路を爆破しこれを「中国軍の仕業」と称して中国軍を攻撃、戦争を開始しました。

日本の支配層は、かねてから「満蒙は日本の生命線」などと宣伝し、二七年の「東方会議」（政府・軍部合同会議）で中国からその東北部（満州）を切り離して日本の領土とする方針をきめました。

日本軍は戦火を全満州、上海にもひろげて、占領した満州に名前だけの皇帝溥儀を据えて傀儡政権の「満州国」を樹立。これを認めない国際連盟の勧告を拒否し日本は連盟を脱退しました。

これは、日本が第二次世界大戦の侵略国ドイツ、イタリアにも先駆けて中国に戦争をしかけ、後の日中戦争、太平洋戦争に拡大していく侵略戦争の出発点となったことで重大な意味をもっています。

「満州事変」75周年

昭和天皇は、関東軍の「勇戦力闘」をたたえる勅語で侵略を公認し、日本のマスコミも「悪鬼の如き支那兵！我軍出動遂に掃蕩」（東日）といった調子で国民の戦意と排外ナシヨナリズムを煽りました。

地下の日本共産党は「赤旗」でいち早くこの侵略戦争の真相と本質を明らかにし、反戦のたたかいをよびかけました。

ところが、戦後明白となったこの満州事変について、「つくる会」の歴史教科書は、満州事変が中国人の排日運動に原因があり、一部日本の将校たちの行動は、ソ連の脅威や国民党革命軍の進行に対してそれらを「解決する計画」をねり始めたもので、国民はその行動を支持したなどと書き、靖国・遊就館の映画は「過激な排日運動の嵐は満州にもおよび、堪忍袋の緒が切れるときがきたなどと黒を白といいくるめる宣伝を平然とやっています。

日本を再び戦争する国に変えようと企む勢力の策動の中で、「満州事変」75周年は、歴史の事実をしつかりつかむ上で大変重要な意味をもっています。

（巽）

抵抗の群像

反戦をつらぬいた不屈の画家



小松益喜

東京・小松 伸哉

東京美術学校の学生だった私の父・小松益喜は、一九二九年（昭和四年）日本プロレタリア美術家同盟に加盟、絵の制作活動とともに社会を科学として学び、芸術と社会変革の統一を考えたという。

内田巖、大月源二、須山計一、松山文雄ら多くの友人を得、同盟機関紙「新美術」を発売し、論文、美意識の変化」を書き、また、世に知られていなかったメキシコの革命画家・ディエゴリベラの紹介を載せるなどの活動もあった。卒業間際の昭和五年二月、共産党中央幹部（田中清玄・後に転向、安保闘争時には公安警察とともに極左暴力団の謀略活動を行ったことで名を馳せた人物）をかくまったことが特高警察の知るところとなり、妻のときとともに渋谷署に留

置された。拘留三〇日。地下室の留置場の寒さとともに、ほぼ完成していた卒業制作を提出できないことが身にこたえた。しかし、放免によって帰ってきた時、学友K君の手によって卒業制作は提出されており、無事に卒業することになった。まだ留置されていた妻ときと面会にいくと、形相が変わるほど顔が青黒く腫れあがっていた。『ひどいことをしやがる』と心の底から怒りをおぼえ、たたかう腹を据えたという。

卒業後、「赤旗」印刷の仕事に参加し、治安維持法の元で命がけの仕事をするようになった。「赤旗」縮刷版第一巻の巻頭を飾るガリ版二色刷りの付録絵も小松益喜の仕事のひとつだった。過労もあり、脳炎を患い倒れた。身元を明

かさないで入院するという困難であつたが、多くの人の協力で入院、一命をとり止めた。しかし、記憶を完全に失うという後遺症を残した。同時期、妻ときも病気になる二人で高知に帰郷した。記憶喪失の日々が続くが、ある日、妻ときが持たせたスケッチブックにかえるを描写し、これを契機に記憶を回復させていく。そして再び妻ときとともに反戦活動に加わった。

病後のことでピラのカットを書く形であつたが、横村浩らの活動に協力。一九三三年上海事変が勃発し、高知四四連隊の出兵を目前にして、侵略戦争反対！と、果敢な行動が開始された。四月、一斉検挙で県下五十余名の一人として妻ときと共に捕らえられ、須崎署へ送られた。東京帰りということもあり、首謀者と見られて病み上がりの身に厳しいリンチを受けた。妻ときは長女がお腹にいたが、やはり拷問を受け、二二〇日の勾留後、出産四〇日前に釈放された。益喜は翌年起訴され、執行猶予で釈放となったが、その後も長期間警察の監視下に置かれた。

上京途中、神戸の異人館に魅せられ、絵の制作を続けるのだが、軍機保護法のもと、「家三軒描けば地図」といわれ、風景画が描きづらくなる。小柄で、徴兵検査は丙種で、赤紙は来なかったが、当時、画家が戦争画を描かないのは圧力との大変なたたかいだった。

町並みが描けないならと、一軒の異人館の「美」を大きく描いた作品も多数生まれた。豊かな知性を持つとともに人にわけへだてしない気さくな人柄は、多くの友人を作り、その助力で、奈良・室生寺の境内に疎開することになる。小柄であつたが剣道でできたえた身体で、大きな画材を担いで帰る夜道は漆黒の世界だった。万葉歌を全文唄えた父は、大声で朗読しながら夜道を帰宅していた。

戦後、小松益喜は、弾圧によるPTSDとたたかいたが、人間性豊かな人生を歩んだ。兵庫を中心に平和運動・女性運動で活躍した妻ときと尊敬し、協力しあいつながら、その長い生涯を、絵を描き、戦争反対を貫いて生きたのです。（2002年没、享年98歳）

同盟歌壇

碓田のぼる選

愛したる大森海岸望む坂に啄木一族の墓に寄り添う
新潟県 加茂川ハル子
ひそやかに十字架刻める姫の墓松前藩墓所緑蔭の濃し

〔評〕前歌は函館の立待岬にある啄木一族の墓に心よせたもの。後歌は、封建の世に許されない信仰をもった藩主の娘への思い。

京都府 須田 稔

「海ゆかば」「君が代」「教育勅語」に飼育され靖国に祀られたしと
わが少年の日

愚かにも敵意植えつけられたわたしにも償う責任厳然とある

〔評〕いかに軍国少年となつていったか、させられていったかを、今思い返している。そこには、負うべき自己責任もあると――。

岐阜県 和田 昌三

わが町にも搜索されし教師居て「銃口」を身近に感じつつ観る
外国の人も短き浴衣着て郡上踊りに打ち興じ居り

〔評〕一首目は、三浦綾子の作品『銃口』の舞台を見ての感慨。二首目は、郡上踊りの熱気溢れた様子の「コマである」。

静岡県 江川 佐一

昨夜来の雨に打たれし蘭の花幾多の故人偲びて眺める
グアム島へ浜松からも演習にエイワックスは飛びて恥なし

〔評〕気品のある蘭の花が雨によつて衰えさせられている様子が、志半ばで死んだ人への思いを誘い出している。後歌結句よし。

東京都 若林 義文

愛国心の評価記載の通信簿を児童に渡し夏休み来ぬ
〔評〕教師の立場に立つての詠であるうが国の政策批判を重ねる。

東京都 鈴木すみ江

知らざりき馬糞に混じる高粱^{こむぎ}を人が食せし歴史のありしを
〔評〕知人の歌集の中にこの戦時体験が歌われていて驚く。

和歌山県 中平 喜祥

横断歩道を渡りきて思う少しばかり髪型を変えてみようか
〔評〕唐突に浮かんで来た思いを、いかにもなめらかに歌った。

東京都 山崎 元

寝物語りと寺子屋の句一つ遣し爆死せる祖母忘れじの夏
〔評〕忘れようとしても忘れられない祖母の死と、思い出である。

書棚

『天皇の軍隊と日中戦争』

藤原 彰 著

大月書店 二八〇〇円

「日本の軍隊が、世界に類をみないほどの不合理と暴力の組織となり、南京大虐殺に象徴されるような虐殺と性暴力を犯したのに、どんな原因があったのだろうか。」ではじまる本書の論文は、

犯罪の記録でもある。

本書は二〇〇三年二月二六日、急逝された藤原さん的一九九〇年代以降に雑誌などに書かれた論文のなかから、「自身の著書に含まれないもの、および自身の回想、巻末には、関係者の追悼文が収録されている。」

藤原さんは戦前、陸軍士官学校を卒業し、四年間、陸軍中隊長として中国戦線に参加し、戦後は一九四六年に東京大学文学部史学科に入学するという異色な経歴をつんでおられる。

著書に『日本軍史』、『日中全面戦争』、『餓死した英霊たち』など数多く著作があり、日本近現代史の先達の一人。

藤原さんは、日本の戦後補償問題で「私はもう年取ってしまいましたが、これは申しわけないけれども次の世代に責任をバトンタッチしなければならぬ」との言葉を残している。

(倉)

第52回日本母親大会

分科会で「共謀罪反対」申し合わせ

7月22、23両日長野市で開かれた第52回日本母親大会は、2日間でのべ一万五〇〇〇名が参加しました。

「世界がみつめる憲法九条」分科会では、九条の会呼びかけ人の一人である助言者の奥平康弘さんは「憲法九条の改定に反対する人は国民の中に相当あるが、一枚岩ではない。自衛隊は合憲、専守防衛などなどの水脈にある人々と会話を交わしていくことが大切」と強調。教育評論家の三上満さんは「九条で、国民投票がされるとしたら、真の投票者はアジアの国民。九条は世界からの預かりもので

す」。持参した戦争賛美の遊就館ポスターをかざし、「全部の小・中学校に配布されている」と報告。「世界の難民の子ともから見たら、日本は憲法九条があるから戦争をしない国と言われる。私たちの方が本当の重みを知っていないのではないか」と発言しました。

参加者からは「テポドンが打ち込まれたときの危機管理という名で体制が作られている」「東京の足立区で9・1防災訓練に米軍が参加する」など戦争する国づくりの実態が報告されました。

大阪の私立幼稚園では年長組に教育勅語を暗唱させているなど危険

ともいえないこと……結局、被告人のした立入行為は住居侵入罪を構成する違法な行為であるとは認められ

ない」と明確に判断、僧侶の被告の主張が全面的に認められた判決で、住民運動の勝利です。

東京・葛飾ビラ配布弾圧事件

東京地裁が無罪判決

判決文では「一般

的には、社会通念上、本件のようなビラ配布が当然禁じられていた

険な動きがでている反面、署名をしてくれた高校生が署名で「ぼくたちは何が出来るのかを教えてください」と聞かれた「など、若い人達の関心が高まっている。全国的に九条の会の活動が大きく広がっていることが報告されました。

同盟から参加した東京の安藤郁子さんは、お父さんが治安維持法によって弾圧されたことを報告、「戦争と暗黒政治の時代を繰り返し繰り返すために頑張っている」と発言しました。

分科会では申し合せて、治安維持法の再来・共謀罪を阻止しましょう」を採択しました。

八月四日、折から原水爆禁止世界大会開催中の広島で、原爆症認定の集団訴訟への地裁判決がありました。

原爆症認定訴訟で全面勝利

四十一名の原告全員に対する厚生労働省の原爆症否認措置は不当であり、やり直しと認定制度そのものは正を求める内容。五月の大阪地裁につづく、画期的な勝利

判決でした。被爆者の原爆症認定を求める集団訴訟は、全国で一八〇人を超える被爆者が病軀に鞭打つて十五ヶ所でおこなっており、三十一人が原告の東京地裁での判決も、この秋の予定です。

これまで原爆症認定者は二十六万被爆者の一%にも満たない約二二〇〇人にとどまっております。勝利判決は、被爆者全体の本来的要求、国家補償による真の被爆者援護法の実現への第一歩としての意義をもっています。広島で地裁判決を傍聴目撃した一人として。(元)

事務局日誌

8月2日 日本国際法律家協会打ち合わせ

8月3日 故高嶋信敏副会長長通夜同告別式

8月11日 婦団連「戦争はごめん女性のつどい」参加

8月11日 「不屈」編集会議

8月15日 日本国際法律家協会拡大理事会

8月15日 8・15全国一斉宣伝行動

8月24日 国際人権活動日本委員会幹事会

8月28日 葛飾ビラ弾圧事件公判判決